

平成 24 年度富山県大学連携協議会公開講座
第 3 回 2 限目「北朝鮮の実相～経済の視点を中心に～」

平成 24 年 9 月 22 日（土）

15:00～16:20

会場 富山県民会館 302 号室

第 3 回 2 限目

「北朝鮮の実相～経済の視点を中心に～」

講師 富山大学極東地域研究センター

教授 今村 弘子 氏

日本も含む東アジア全
体が安全・安心とは言えな
い不安定な状態になって
いる中で、その要因の一つ
である北朝鮮について、主
として経済面からお話し
したい。



1. 金正恩体制以前の北朝鮮

北朝鮮では、昨年 12 月に金正日総書記が亡くなり、三男の金正恩が第一書記の座に就いて、金正恩の治政が始まってから 9 カ月が経過しようとしている。「2012 年には強盛大国の門を開く」、つまり軍事・政治・経済面で強く盛んな国になると言っていたが、門は果たして開いたのだろうか。軍事的には核保有国になり、政治的には金正恩の時代になったことで、北朝鮮自身は強盛大国になったと言うかもしれない。しかし、経済的には長ら

平成 24 年度 富山県大学連携協議会 公開講座
第 3 回 2 限目 「北朝鮮の実相～経済の視点を中心に～」

く明確な目標が示されてこなかった。金正日は、「白米の飯を食べ、肉のスープをすすり、瑠璃瓦の家に住む」と言っていた。それを理想の生活としたわけだが、金日成も 1970 年代に同じことを言っている。それを考えると、北朝鮮は 1970 年代からほとんど経済が進歩してこなかったとも言えるだろう。

北朝鮮は、昨年あたりから「強盛大国」とは 1980 年代の水準になることを意味するのだと言っているが、実は北朝鮮は 1990 年代半ばに大洪水などの自然災害で甚だしい食糧不足に陥った。また、政治的にも韓国が 1990 年にはソ連と、1992 年には中国と国交を樹立して二大社会主義国の支えを失い、なおかつ 1991 年のソ連・東欧圏の崩壊で援助が途絶え、経済的にもどん底の時代になった。そこから今は少しずつ回復しているが、まだ 1980 年代の水準には戻っていないと北朝鮮は考えているようだ。

しかし、この考えは極めて疑問である。北朝鮮は 1980 年代が主要産業の生産量が最高水準であったと言っているが、それは生産「能力」が最高水準であったにすぎない。1972 年の南北朝鮮の赤十字会談によって韓国の発展を知った北朝鮮は西側から生産設備を導入して経済を発展させようとした。しかし 1973 年の石油ショックによりプラント代金が高騰し、逆に北朝鮮の主力輸出品である鉛、亜鉛等の非鉄金属の価格が下落したことから、北朝鮮はその代金を支払えなかったばかりか、原材料やエネルギー不足のためプラントを動かすことができずにいたのだ。そのため西欧の銀行は北朝鮮に対してデフォルト宣言をしようとしており、日本との間でも債務の繰延（リスケジューリング）が行われたが、それも最初の 2～3 回しか支払われないという状態だった。西側の基準からすれば、80 年代に既に北朝鮮は破綻国家になっていたということである。

実際のところ、最近の報道では「強盛大国」という言葉はほとんど使われなくなり、そ

れに代わるような形で、2011 年 1 月に 2020 年を目標とした「国家経済開発 10 カ年戦略計画」が出されている。これは 2012 年までに目標を達成できそうにないため、単に目標を先送りにしただけだとも解釈できる。1980 年代にも同様のやり方で目標の先送りが行われているからだ。また、そもそも北朝鮮の中で誰も「強盛大国」に期待していないので失望感もないのだろうという説を唱える者もいる。

北朝鮮では既に 90 年代末に「計画なき計画経済国家」となっており、やむを得ず農民市場を認めていた。そのため経済状況が少し改善すると計画経済に合致しない市場を開鎖しようとするのだが、もはや市場なしには経済が回らない状況になっている。2005 年には配給制の正常化を試みたが、政府は配給物資を確保できず結局頓挫した。

また、2008 年には、男性や若い女性を生産労働に回し、市場で販売できる人間を 45 歳以上の女性に限ろうとしたが社会主義国家にも係わらず国民から異議申し立て運動が起こり、政府はこれを撤回せざるを得なかった。つまり、市場が非常に重要な役割を果たしているわけだが、物流の未発達から地域限定的なものにとどまっており、「市場経済」は「いちば経済」と呼ぶべきものであろうと思われていた。しかし、どうも最近の様子では「しじょう」と呼べるほど全国的なものに発展しているようである。

2. 北朝鮮情勢は安定に向かうのか

金正恩体制は、取りあえずは安定しているようだ。大混乱が起こっているという話は漏れ伝わってはきていない。経済の面から見ると、90 年代半ばの飢餓、2009 年のデノミネーションによる混乱等の中を生き抜いた人々、つまり、お上の言うことを聞かずに自ら生き抜くすべを身に付けた人々が多く存在するということである。

しかし、懸念材料も多い。市場の導入により所得格差が生じており、貧困層の不満が高

平成 24 年度 富山県大学連携協議会公開講座
第 3 回 2 限目「北朝鮮の実相～経済の視点を中心に～」

まっていると推測される。現在のところは、まだ散発的な異議申し立て運動から全国的な暴動へと広がるような状況は生まれていない。その理由として、中東のジャスミン革命や中国の反日デモとは違い、北朝鮮ではネットや携帯電話を使用する人が限定的なことが挙げられるが、所得格差に対する不満の高まりがそうした状況を引き起こしかねない。

私は 1994 年と 2009 年に北朝鮮を訪れたが、2009 年の訪問では前回との違いに驚かされた。役所などが持っている車のナンバープレートは白色なのだが、黄色のナンバープレートを付けた自家用車が走っているのを見たのだ。オリンピックで金メダルを取った人や映画俳優が所有しているのだろうとガイドに説明されたが、ガソリン代もかかるだろうし、自家用車を持っている層が既に存在すること自体がまずは驚きだった。

もう一つ面白かったことがある。観光で地方都市へ行く間に、われわれが乗っている車にヒッチハイクを試みる人がいたことだ。北朝鮮では普通、車に乗っているのは役人などの地位の高い人で、そういった車が一般の人を乗せるはずがない。このことから推察するに、偉い人が乗る車以外の車もたくさん走っているのではないだろうか。自動車の数自体が格段に増えていたし、着るものも良くなっていたことが目に付いた。

また、ネット版の「人民日報」には、北朝鮮の最近の景色として、平壤に造られた高層アパートの写真が掲載されている。最初はアパートを 10 万戸造ると言っていたのだが、その目標は達成できなかったようだが、蛍光灯が灯る高層アパートが一部であれできあがっている¹。平壤は北朝鮮の中では大変恵まれた都市であるのに対し、地方都市はいまだに貧しい状況に変わりはないが、それでも 90 年代半ばの貧しいだけの印象とは少し違ってきている。

2009 年に北朝鮮から中国に列車で帰ってきたときに、車窓から何枚もの写真を撮ること

ができた。季節は夏だったので山の上まで陸稲を栽培していたが、人々が持つ農機具はお粗末なもので、牛が荷物を運んだり畑を耕したりしていた。同じ列車に乗り合わせた日本人観光客は、ガイドに「牛の写真など撮るな」と言われたそうである。経済水準が高くないことを恥じたのだろう。山腹に作られた畑は木も植えず土留めもしておらず、少しの雨でも大洪水を起こすという状態が続いている。

このように、皆が等しく貧しければ不満を持ちようもないのだが、貧富の格差が生じ始めていることが少し気になった。

(図 1) 耕作や運送に使役される牛



(2009 年筆者撮影)

3. 政変と 6.28 措置

今年 7 月になって、北朝鮮人民軍の最高実力者・李英鎬総参謀長が粛清された。彼は、金正日の葬儀の際に棺を載せた車に手を置いて歩いていた 8 人のうちの 1 人である。これ

が何を意味するのか。北朝鮮では軍を優先する先軍政治が行われているが、もしかするとこの体制に変化が起こってくるのかもしれない。あるいは、軍に対する党の本来あるべき優位性を取り戻すために、軍の幹部を更迭したのではないかと思われる。それは、党が経済運営をしっかりとやるという意味の表れなのかもしれない。

今年 4 月には、北朝鮮がミサイルを発射し、2～3 分後にはミサイルが墜落したという事件があった。巷間、その失敗をすぐに発表したことは北朝鮮の変化ではないかといわれていた。しかし、実際には失敗を軍部粛清の口実にしたとも考えられる。その後、大混乱が起ることを私は心配していたが、その気配もないことから考えると、金正恩の政権基盤は実はかなり強化されているのかもしれない。

このような状況下で、「6.28 措置」という経済改革政策が打ち出された。現時点ではどのようなものかは不明だが、今年 9 月 25 日の最高人民会議で正式にゴーサインが出され²、翌月 1 日から正式に開始されるだろうといわれている。農業生産を回復させるために、政府が収穫物の 7 割を買い取り、残りの 3 割は農民が自由に売買できるようにするらしい。ただ、政府が 7 割を買い取るということは、まだ配給制を続けるということだろうか。中国や韓国から情報が流れてきてはいるが、依然この政策の見通しは分からない。

もう一つ懸念していることがある。実は 2001 年にも、経済管理改善措置として物価や給料を上げる、工場の自由裁量権を拡大するといった政策が行われていた。この措置の致命的な欠陥は、生産すればするほどもうかるという個人に対するインセンティブ・システムがないことで、そのため失敗に終わっている。政策実施当初は北朝鮮に期待感を持った人もいたが、やはり合理的ではなかったようだ。今回、同じ失敗を繰り返さないことが最も重要である。

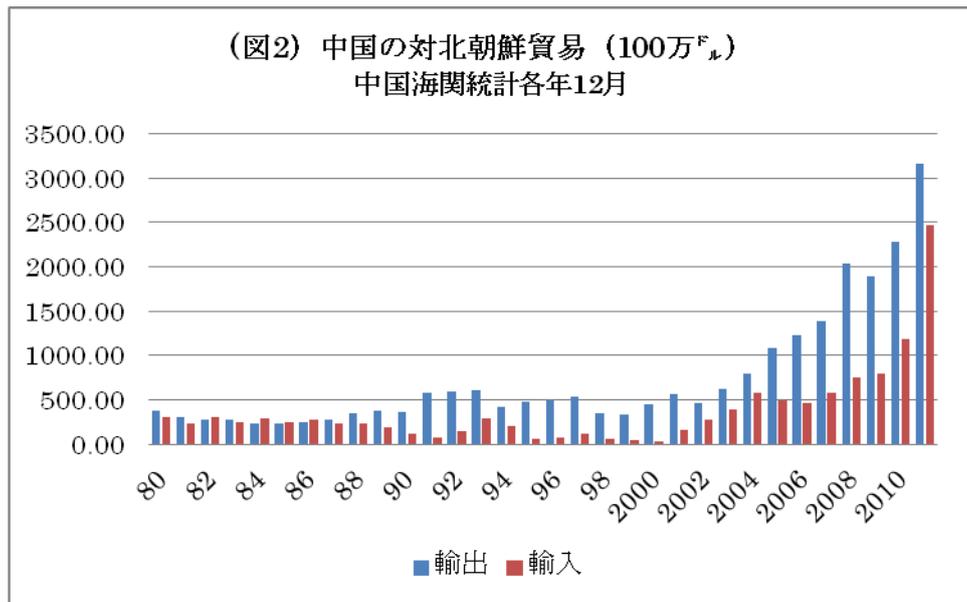
4. 中国の立場～安定する朝鮮半島～

最近、私は中国と北朝鮮の関係が非常に気になっている。中国が北朝鮮にどのような立場をとっていくか、そして、それが朝鮮半島の安定に寄与するかどうかについて、少しお話ししたい。

中国は 2003 年から朝鮮半島の非核化を目指す 6 カ国協議の議長国を務めているが、現在、6 カ国協議は休止状態にある。2006 年と 2009 年の北朝鮮の核実験に対して国連制裁決議案が出たとき、常任理事国として拒否権を持つ中国は賛成票を投じている。しかし、北朝鮮の核実験に対する中国の態度は 2006 年と 2009 年で明らかに異なっていた。2006 年の核実験の後、半年以上も中朝間での政府や党の要人の往来を断絶したほど中国は本気で怒っていた。しかし、2009 年は制裁決議には賛成したものの、中朝国交樹立 60 周年に当たる年でもあり、中国内でも論議はあったのだろうが、記念行事出席のため温家宝首相が訪朝し、その際には中朝国境にある鴨緑江の老朽化した橋の架け替えへの援助を約束している。

ソ連・東欧崩壊後、中朝貿易は中国から北朝鮮への輸出を中心に増加してきたが、ここ 1～2 年は北朝鮮から中国への輸出が増加している。ソ連・東欧崩壊後、北朝鮮は社会主義国である中国への依存を高めざるを得なくなっているという状況なわけだが、90 年代に入ってから、中国は北朝鮮に対して特別な配慮は行っていない。80 年代の中朝貿易は、輸出入を同額にする清算勘定方式をとっていたため、中国からの輸出品の単位当たりの価格を低くする操作が行われていた。いわゆる友好価格も採用されており、例えば原油価格は国際価格の 7 分の 1～3 分の 1 と安価だった。ところが、92 年からはドルなどの外貨によるハードカレンシー決済となったことで、中国の北朝鮮向けの原油価格が日本向けよりも高

くなることもあった。従って現状では、中国の輸出は金額としては増加しているが、量は全く増えていないのである。



90年代からの北朝鮮経済の悪化により、2008年までは中国の出超額が北朝鮮からの輸入額よりも大きいという状況が続いていたが、2010年後半から北朝鮮の対中輸出も増加している。それは中国が、北朝鮮に投資して非鉄金属や石炭、鉄鉱石などの鉱物資源を輸入していることによる。これは、中国国務院が東北三省振興の一環として2009年に発表した「図們江区域開発計画要綱（長吉図開発開放先導区）」の方針に沿っている。長春市、吉林市、図們江区域を中心に、モンゴル、北朝鮮一帯を開発していくというもので、中国は同年の温家宝首相による北朝鮮訪問の際、この計画に対する北朝鮮の内諾を得ている。

そして、2010年には、海への出口を持たない吉林省が、北朝鮮の羅津港を租借した。それ以後、道路整備も行われ、つい最近では羅津港よりさらに北朝鮮側に入った清津港をはじめ

め 5～6 港を借りたという報道もある。吉林省はこれらの港から石炭などの物資を上海に送っており、その物資の移動の際には国境線を 2 回通過するわけだが両国の通関統計には計上されず、中国の国内貿易として扱っている。また、北朝鮮の輸出では採掘した資源だけでなく、衣類などの縫製品もかなり伸びてきているが、これは中国が輸出したミシンなどの縫製機械によって生産されたものだろう。

もう一つ中国が進めているのが北朝鮮の吉林省側に近い羅先特区の開発で、こちらはかなり進んでいるようである。また、遼寧省と北朝鮮との国境地帯、鴨緑江の中州である黄金坪・威化島にも経済特区をつくらせている。昨年 6 月には中国の商務部部長（大臣）が参加して起工式も行われているが、この島は鴨緑江の下流地域にあり、豪雨の際にはすぐに冠水してしまう。従って、ここを経済特区にするためには洪水対策に莫大な費用が必要になるだろう。また、この島は中国の間近にあるので、そこで北朝鮮の人を働かせるとなると、人の管理が極めて難しいと思われる。さらに、黄金坪・威化島の対岸にある遼寧省の丹東という地域で新しいまちをつくっており、果たして黄金坪・威化島に新しい工業地帯が要るのかという疑問もある。日本の新聞では羅先と黄金坪・威化島が並列で書かれているが、経済的魅惑には差があり、今のところ羅先が一步先んじている。

5. 北東アジアは安定するのか？～日本や富山に対する影響～

北東アジアにおける 2012 年は激動の年である。そのため、今年、北東アジアの安定を望むことには多少悲観的にならざるを得ない。むしろ今年を問題なくやり過ごすことが第一ではないだろうか。

今年 12 月 19 日には韓国で大統領選挙が行われる。韓国では大統領は 1 期(5 年)しか務めることができないので、新しい大統領が誕生することになる。今の李明博大統領の下で

は南北朝鮮関係が非常に悪くなったため、誰が新しい大統領に就くにしても関係は今よりは良くなるだろう。ただ、大統領が替わってすぐにドラスチックに関係が変わるわけではなく、大統領としての権限が振るえるまでには少し時間がかかると思う。

中国でも秋に党大会があり、党の代表が替わる。また、来年 3 月の全国人民代表大会で政府のトップが入れ替わることになる。権力の交代期には、権力の座から降りる方も、新しくその座に就く方も、弱いところを見せられず、さまざまな力関係が働く。1 月にはロシアの大統領選挙、4 月には台湾の大統領選挙が行われ、11 月には米国の大統領選挙があり、日本もどうなるか分からない。大変な権力移行期中、物事が決まらない、決められない年になっている。このためもし何か変化を促す力があつたとしても、2013 年後半にならなければ動きだせないだろう。

そこで心配なのは、各国における政権の空白の間隙を突かれることである。何事もないよう願うばかりで、北朝鮮の状況も安定しているので大丈夫だとは考えているが、一抹の不安を抱えておいた方がよく、もしもの事態への対処も考えておかなければならない。今は各国の権力の交代期にあり、北朝鮮問題を話し合えず、領土問題で日中韓の協力体制がとれない状況にある。それを弱みとして見せると問題が起こってくることもあり得るということだ。すぐに日本や富山が不安定になるというわけではないが、国際的に問題のある年であることは確かである。状況の変化に一喜一憂することなく、大所高所からの話し合いができる体制をとっておくことが必要なのだろう。

¹ 地方都市では電力不足のため、照明が少ない。

² 最高人見会議は開催されたが、「6・28 措置」の詳細は発表されなかった。